

目指す学校像

府中第一中学校 教育目標

人権尊重の精神を基盤としたよりよい社会の実現に向けて、自他の生命を尊重し、主体的な判断の下に誠実に行動し、思いやりと感謝の心をもって他者と関わり、正義と公正を重んじ、誰に対しても公平に接し、真理を探究する生徒を育成する。

「創る 伝える 結ぶ」

- (1) 生徒も教職員も生命の尊厳を深く理解し、安全で安心して生活できる学校
・生命を尊重する視点、差異を認め合う視点、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めていく人権の視点、生徒も教師も共有する。
また、災害や感染症等に対する危機管理体制を確立するとともに日常の安全指導の充実を図る。
- (2) 学校生活において一人一人の生徒を大切に、状況に応じて対応する学習指導、生活指導、進路指導の推進を図る。
・一人の生徒を大切に、状況に応じて対応する学習指導、生活指導、進路指導の推進を図る。
・生徒のために教師がいるとの自覚の下、教師中心ではなく生徒中心の教育活動を充実させていく。
- (3) 生徒の主体性が発揮され、生徒の豊かな人間性や内発的な能力を開花させることができる学校
・学習指導では、授業において話し合い学習などの協働的な学習を取り入れる。
・生活指導では、各様の行事や委員会活動における生徒の主体的な活動を推進するとともに、自己決定の場の設定や共感的な信頼関係を通した自己指導能力の育成を図る。
- (4) 専門性の高い教員の指導による質の高い教育活動が提供され、生徒が学ぶ喜びを実感できる
①学校・高い専門性に基づく学習指導、②質の高い教育相談や特別支援教育の推進、③関係機関との効率的な連携による多層的な支援などを通して、授業や行事、係活動や委員会活動などで楽しく学ぶことのできる学校を目指す。

目指す生徒像(主体的に考え、問題解決に取り組む生徒)

- 教育目標と関連させて以下の通りを設定した。
- (1) より高い自分、より高い集団の形成に向けて、主体的に問題を見付け解決を図りながら、より良い価値を創造していくことのできる生徒
・自分自身の考えや思いを相手に伝えることができること、相手の考えや思いを受け止め、相手から学ぶことのできる開かれた対話を実行できる生徒
・互いの良い点を認め尊重しながら、課題を指摘しあえる集団
 - (2) 自ら自分の考えや思いを相手に伝えることができること、相手の考えや思いを受け止め、相手から学ぶことのできる開かれた対話を実行できる生徒
・互いの良い点を認め尊重しながら、課題を指摘しあえる集団
 - (3) 自他の生命を尊重し、他者の差異を認め、仲間とのつながりを大切にすること、学校と地域、学校と社会のつながりを創り深めていくことのできる生徒
・創る
・伝える
・結ぶ

目指す教師像・教師集団

- 「生徒や保護者・地域からの信任にこたえる、向上心に満ちた一体感のある教師集団」
- <教師像>
・生徒の人権を尊重しながら、言葉や表現を工夫し、常によりよい教育活動を目指す。
・教材等についての理解を深め、ねらいに応じたデジタルとアナログのベストミックスを思考する。
・メリハリのある勤務を心掛け、自らの心身の健康を図ることができ、
- <教師集団>
・組織の一員としての自覚をもち、教育公務員として適正な考えと態度を身につける。
・互いの良い点を認め尊重しながら、課題を指摘しあえる集団
- <教師集団>
・人権意識をもち、言葉や表現を大切に集団
・困難な状況にあっても、なすための知恵に時間を使う集団
・教科の枠にとらわれずに研究できる集団

令和8年度の主な取組

- (1) デジタルを活用したこれからの授業の在り方について、令和6・7年度の実践研究を精査し改善を図る。
・各教科等の教育活動において、発見・対話・決定・表現する過程を重視した協働的な学びを展開するとともに、学習状況に適したデジタルとアナログのベストミックスを図った効果的な学びを展開する。
- (2) 自他の生命を尊重し、いじめを許さない人権教育や道徳教育を推進し、豊かな心の育成を図る。
・いじめの未然防止等の取組を進めるにあたって、生徒の自治活動の活性化を図る。
- (3) 各教科の学習において、習得・活用・探究の過程について教育的な価値について理解を深め、生徒が主体的に問題解決に取り組む学習過程を計画的に導入する。
・タブレット等を各段階における効果的な活用と粘り強く取り組む態度を育成するとともに、情報について確かな態度を育成し、情報活用能力の伸長を図る取組を推進する。
- (4) 全校の生徒を全校の教員が見守り育ていく生活指導を推進し、生徒の自己指導能力を育成する。
・教育相談的な手法や生徒に寄り添う生活指導に徹する。また、生徒による自己決定の場を数多く設定するとともに共感的人間関係の構築、自己存在感の育成を通して生徒の自己指導能力を育む教育環境を構築する。
・生徒会を中心に学校生活の状況について、振り返り検討させ、より充実したものへと改善する取組を促進することを通して社会性や自己指導能力の素地形成を培う。
- (5) 生徒一人一人の個別のニーズに対応して効果的な支援を行うため、特別支援教育の充実を図る。
・週1回の校内委員会の一層の活性化を図る。生徒一人一人の状況に応じた支援あり方を協議し、組織的に実行していく。
・けやきの森学園と連携し、校内の特別支援教育に関わる理解・啓発を推進し、生徒に対する支援の充実を図る。
・通常の学級とK組との交流及び共同学習の推進を図り、生徒間での差異を認め合う教育環境を構築する。
・授業や行事への取組の中で、時間の構造化や空間の構造化を図り、教育活動におけるユニバーサルデザイン化を積極的に推進していく。
- (6) タブレット等のICT機器を活用した教育活動と研修の充実に積極的に取り組んでいく。
・中学区の小学校と連携した学びを協働して展開する。また、全教員の研究授業等を動画で記録し、研修会に活用するとともにそのまともを他校等にも情報提供して、市内各校での授業改善の礎とする。
- (7) 集団としての力を一層高めるため、運動会や合唱祭、校外学習などの行事を生徒主体で企画・運営する。
・生徒による行事の企画立案や運営主体を生徒に置き、生徒中心で学校行事等が営まれるよう、校内体制を確立する。
- (8) 学校や学級に対して過剰に生徒のため、サポートルームや教育相談機能を充実させ支援体制を整備する。
・不登校生徒に対する効果的な支援を実行するために、アセスメントシートを作成し、個々の生徒の実態を明らかにしうえて、複数の教員による組織的な対応による効果的な登校支援を行っていく。
・不登校巡回拠点としての強みをいかし、情報共有と多角的な対策の強化を図る。